様式3

学 校 番 号

3

令和 4 年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立育徳館高等学校

自己評価

学 校 運 営 計 画 （4月）

評　価（総　合）

学校運営方針	育徳館の歴史と伝統を礎にして、次世代を担う「徳」・「知」・「体」のバランスのとれた人材（次世代のリーダー）の育成に努める。	
昨年度の成果と課題	年 度 重 点 目 標	具 体 的 目 標
成果 ○生徒の興味関心を引き出す授業、指導の工夫を進めた。 ○家庭や関係機関との連携により、安全教育活動を行った。 ○主体的に情報を収集し、進路実現ができるよう支援した。 ○デジタル課の設置が教育のICTにつながった。 課題 ○観点別評価に基づく授業を展開し、授業改善を推し進める。 ○生徒の主体性を尊重した学校運営を通して、自立心を育む。 ○6年間を見通した中高各学年の進路指導計画を策定する。 ○中学生や地域への広報活動につながる教育活動を充実させ、HP等の積極的に活用し情報を発信する。	学問的な深まりのある授業を通して、生徒が主体的・協働的に課題を発見し解決する力を身につけさせる。	全校生徒による英語検定受検や英語スピーチコンテスト参加を通し英語教育の充実を図る。
		ICTや評価についての研修を深め、双方向の授業や適切な観点別評価で生徒の学習意欲向上を図る。
	生徒会活動の活性化、部活動加入を奨励し、活力ある全人教育を行う。	生徒主体、全員参加の学校行事を実施し、生徒の自律性、自尊感情、自己効力感を高める。
	人権意識の涵養と生徒の人格を尊重した学校作りを進める。	全ての教育活動において共感する心の育成、多様性や他者の尊重、自己責任を重んずる態度を育てる。
	本校が地域から求められているものを見極め、進路学習の体系化を確立し、進路実績を向上させる。	自己の能力や適性を的確に判断し、主体的に進路決定ができるキャリア教育を進める。
		総合的な探究の時間やHR活動で、より高い進路目標の設定と実現に努力する能力を育成する。
	働きやすく働きがいのある職場づくりを行う。	授業改善や生徒と向き合う時間を確保するため、校務支援システムやICT化により働き方改革を進める。

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評価（3月）			次年度の主な課題
教務部	観点別評価によるPDCAサイクルを授業に生かし、中高一貫教育の魅力向上と生徒の学校生活満足度を高める。	個人面談週間や生徒情報交換会の内容を共有し、生徒理解を教育の根本とする。				
		複数学年合同授業など本校の特色を生かした教育活動を通じ、生徒の学校満足度を向上させる。				
	新学習指導要領を踏まえ、HRや総合的な探究の時間の内容改善を進め、心身の発達と進路実現意欲の向上を促す。	授業公開を積極的に行い、切磋琢磨することで授業力を高め、それを地域にアピールする。				
		育徳手帳を改善し、生徒の主体的な学習活動、的確な進路目標設定を促す工夫を行う。				
生徒部	生徒会活動や部活動の更なる活性化を図り、生徒の主体性・リーダーシップを育成する。	定期的な服装・頭髪検査をやめ、生徒会が中心となって全校生徒の規範意識の向上につなげる。				
		ICT機器の取扱ができる生徒を育成し、学校が一体となってデジタル化を進める。				
	校外の専門機関、専門家と連携し教育相談の充実を図るとともに、いじめの未然防止、早期発見に努める。	SC、SSW、関係機関と連携し、教育相談を充実させる。緻密な生徒情報の交換を行う。				
		アンケートや会議等で情報を共有し、いじめを見抜き、許さない学校作りを進める。				
	美化活動の徹底、交通安全指導、避難訓練等を通じ、安全、衛生、防災意識を高める指導を効果的に実施する。	感染症対策の徹底及び丁寧な清掃活動を通じ、自身の安全とともに公共の精神向上を育む。				
		学校安全計画や関係機関との連携を強化し、危機管理を徹底する。				
	互いの人権や人格を尊重する態度を育成する。	日常の教育活動の中での人権教育指導力向上につながる職員研修を実施する。				
		配慮が必要な生徒について職員間で情報を共有し適切かつ組織的に対応する。				
進路部	入試改革、高大接続改革に対応した進路指導の充実を図る。	高大接続、入試改革に関する情報共有を踏まえ、適切な進路指導計画を実施する。				
		総合的な探究の時間の内容精選を進め、生徒の探究力向上を目指す。				
	希望進路の実現に向けた実態把握と基礎学力の向上を図る。	各教科の模試分析を、学年の指導方針に反映させるPDCAサイクルを確立する。				
		希望制課外授業を生徒の基礎学力向上、入試対応力の向上につなげる。				
	「キャリア教育指導計画」の実施と改善を図り、「次世代のリーダー」として求められる資質の向上を支援する。	キャリア教育指導計画の検証と改善、内容の精選を進め、キャリア教育を発展させる。				
		活性化委員会を定期的に実施し、6年間のキャリア教育のあり方を再構築し実施する。				
育徳創造部	魅力ある諸行事を企画実施し、広報活動を積極的に推進する。	体験入学や紹介動画等のPR活動を積極的行い、中学校や地域とのつながりを深める。				
		芸術鑑賞を通して情緒豊かな生徒を育成する。良書に親しむ読書活動の推進を図る。				
	PTAや同窓会との連携を図り、本校のイメージアップを目指す。	デジタル化と連携し、学校HPの充実やポスターによる広報活動対象範囲を拡大する。				
		PTAや同窓会、地域の協力の下、魅力ある教育活動を充実させ、積極的に発信する。				
デジタル推進課	デジタル機器の活用による授業支援、校務のICT化、生徒の機器操作能力の向上を図る。	生徒と双方向通信手段の完成、スタディサプリの積極的活用を通じ個に応じた学習を推進する。				
		年3回の職員研修を通してICTの授業活用や各種アンケート集約のサポートを行う。				
1学年	「自ら気づき・考え・行動できる」生徒を育成するため、自発的な家庭学習の充実とキャリア形成を意識した組織的な進路指導を行う。	校外活動を勧奨し、進路目標に応じた個別学習の定着や協働的な学習を支援する。				
		生徒一人一人が活躍できる場を設定し、主体的に行動できるリーダーシップを育成する。				
2学年	課題研究「育徳プラン」を通して主体的・意欲的に進路目標を設定でき、部活動や学校行事で積極的にリーダーシップがとれる生徒を育成する。	長期休業後の課題テスト、手帳やスタディサプリを活用した自学能力の向上を図る。				
		大学説明会への参加、志望理由書の作成など、積極的・組織的な進路指導を進める。				
3学年	「勇猛精進」のスローガンの下、自己の進路目標実現に注力し、、自己実現に向け努力する生徒の育成とそれを強力に支援する体制づくりを行う。	模擬試験の事前事後自己分析を徹底し、自発的・計画的な学習遂行能力を身につけさせる。				
		成人にふさわしい規律遵守や他者への配慮など、人権意識の完成を図る。				

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

学校関係者評価

評　価（総　合）

自己評価は

A ： 適切である

B ： 概ね適切である

C ： やや適切である

D ： 不適切である

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

評価項目以外のものに関する意見